林業成長産業化地域創出モデル事業⑯

和歌山県田辺地域「ムクファースト」実現に向けたサプライチェーンの構築と人材育成

～和歌山県田辺地域の取組～

1 田辺地域の現況

田辺地域は、紀伊半島の南西部に位置し、市の面積約10万haのうち森林面積が9万haを占めており、スギ・ヒノキを中心とした人工林の蓄積量は、和歌山県全体の3割にあたる2,800万㎥となっています。

この豊富な森林資源により、本地域は古くから林業・製材業が盛んに営まれてきました。本地域で生産された木材は、強度・耐久性に優れ、色合いが良い等の特性から、その品質が知られており、「紀州材」ブランドとして、無垢材中心の製材・加工等が行われています。

一方で、木材価格の低迷等による素材生産量の低下によって、地域で消費される原木のうち、約3割が県外から供給されている状況にあり、需要に対する安定供給体制の構築が大きな課題となっています。

このような課題解決を含め、林業振興を基盤とする地域活性化を実現していくため、平成29年に林業、製材業や行政機関など14団体からなる林業成長産業化地域創出モデル事業に取り組んでいます。

2 これまでの主な取組

(1)スマート・サプライチェーンの構築

適材を適所に直送する仕組み、いわゆるスマート・サプライチェーンの構築に向け、川上から川下までの木材需給情報の一元管理を図るため、ICT等を活用した木材安定供給システムの構築を進めています。

特徴としては、段階的にスマート・

地域構想における重点プロジェクト

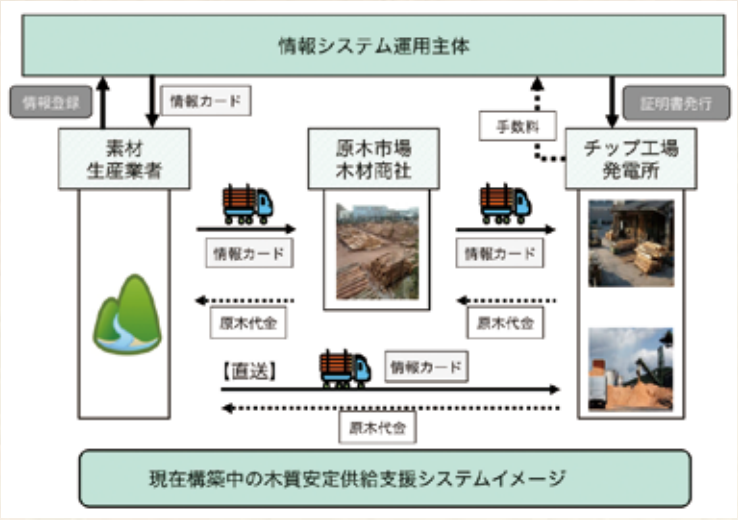
林業成長産業化運営協議会

1	スマートサプライチェーンの構築と運営 地域性を考慮し、適材を適所へ供給するシステム構築
2	ICT等を用いた情報管理とトレーサビリティの確保 川上～川下まで情報の一元化・共有、トレーサビリティ(産地証明)の確保
3	ロググレーダー等の人材育成 原木仕分け技術の向上
4	低コスト林業の推進 高性能林業機械、新技術の導入、低コスト高効率な路網整備の推進
5	ムクファーストの推進 普及啓発・協力依頼、木育の推進
6	木材産業の体質強化支援 新規販路開拓
7	循環型林業の推進 造林コストの低減(民国連携)、適地適木の推進

地域構想における重点プロジェクト

サプライチェーンを構築していくというもので、その導入として、木質バイオマス発電所に対する木材供給体制の構築・運用に取り組んでいるところです。

また、平成30年度から、本地域にある2つの木材共販所が連携した特別合同市を開催しており、新規顧客の獲得や、木材販売価格の向上等の成果を上げています。



木質安定供給支援システムイメージ

紀州材特別合同市

木質安定供給支援システム検討

ログ・グレーダー研修

大型トレーラー導入現地検討会

(2) ログ・グレーダー等の人材育成

スマート・サプライチェーンの構築には、中間土場等で原木を適材適所に仕分ける人材（ログ・グレーダー）の育成が必要なことから、木材共販所の職員を講師に招き、林業事業体の従業員等を対象に、マンツーマン方式で研修を行っています。令和3年度までに、8名のログ・グレーダー育成を目標としており、令和元年度には2名、今年度は3名の研修を予定しています。

3 今年度の具体的な取組

(1) ムクファーストの推進

本地域で製材・加工される無垢材の利用推進に向けて、地域や都市部の木材需用者を対象とした「ムクファースト・フォーラム」の開催を予定しており、紀州材ブランドの普及啓発や、付加価値の向上に取り組みます。

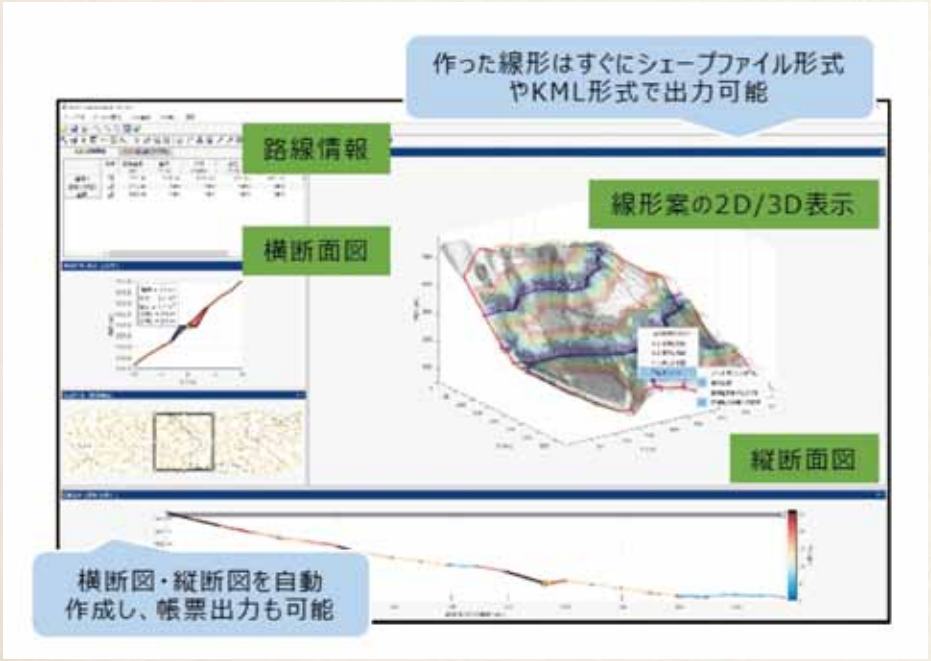
(2) ICT等を活用した低コスト林業の推進

現場における路網シミュレーションソフトの導入に向けた研修会を開催するとともに、路網と高性能林業機械等を組み合わせた効率的な作業システムの構築や、平成30年度に現地検討会を実施した大型トレーラー導入による輸送コストの削減に向けた路網整備計画の検討に取り組みます。

4 おわりに

本事業を通じて、地域の林業関係者が連携した技術者の育成や、直送による適材適所への原木供給体制構築に向けた動きなど、具体的な成果も出てきています。また、木質安定供給支援システムを中心としたスマートサプライチェーン構築に向けて、関係者の意識も高まりつつあります。

今後も、本地域に適した手法を模索しながら、林業成長産業化に向けた取り組みをさらに進めていきたいと思います。



路網シミュレーションソフト